

かわにし市民会議からの提案

～ 第4班 文化・歴史の活かし方～

以下の5つの提案は、私たち第4班の会議参加者が、5回にわたって議論してきたことや、各回で記載した「改善提案シート」の内容を中心にまとめたものです。

今回の市民会議を通して、私たちは「清和源氏発祥の地」をはじめとして、実はとても価値のあるところに住んでいることがわかった。きれいに宅地開発されていても、重要な歴史の上に私たちがいることを認識し、そのことへの誇りや愛着をこれまで以上に持っていきたい。そして、市民誰もが川西の歴史や文化を自慢できるようなまちをつくりたい。

提案

1. 市民が日常の中で川西の歴史や文化を「知る場」をつくり、かつ楽しく学べる環境をつくる

提案

2. 川西にある歴史・文化資源（多田神社、三ツ矢記念館、加茂遺跡、勝福寺古墳など）をより身近に感じられるよう活用の仕方を工夫する

提案

3. 他の市町村や企業との連携を強化したり、市にある資源やイベントをつなぎ合わせてストーリーを作ることで、さらなる付加価値を付ける

提案

4. 川西をこれまで以上に「歴史・文化のまち」にしていくため、情報の伝え方や表示の仕方などを工夫する

提案

5. 市民一人ひとりが川西を自分ごと化することで、自分の住む地域を大切に
する文化を形成する

1. 市民が日常の中で川西の歴史や文化を「知る場」をつくり、かつ楽しく学べる環境をつくる

【提案内容】

川西市に長年住んでいる市民であっても、川西市の歴史・文化について知らないことが多くあることがわかった。一方で、歴史や文化については、きっかけがなければ関心を持たない人が多いので、いかにして日常の中で楽しく学べるような工夫をできるか、特に若い世代に関心を持ってもらうことが重要となる。漫画、アニメ、かるたなど、色々な手法を使いながら川西の歴史・文化を楽しく知る環境を作る。

「提案1」の実現に向けて、それぞれが行うこと

個人

資料館に足を運ぶなど文化財についての知識をたくさんつける。

清和源氏や多田神社など市民が川西の魅力を再発見することを目的に、市民会議4班のメンバー有志で「まちの宝物サポート隊」を結成する。

市のホームページや図書館で川西市の文化や歴史を調べたり、サークル活動や勉強会に参加することで、自分自身の住んでいるまちを知る。

市内の史跡や文化財を訪れて、体験する。

自分自身が知った・体験したことを知人、友人、家族と情報交換する。

行政が行う文化財の見学会や能勢電鉄(株)主催のハイキングなどに声をかけて参加する。

地域として文化財ツアーや子どもが参加しやすい体験型イベントを行う。

地域

「まちの宝物サポート隊」の隊員募集やサポートを行う。

自治会で歴史クラブを作るなど、歴史を学ぶ場を作る。

ウェブやメールを用いて地域主催のイベントを定期的に発信し、実施結果も感想を添えて配信する。

行政

住友銀行が発刊していた漫画「川西の歴史」を学校の授業や文化財イベントなどで活用する(現在、図書館には蔵書されている)。

「きんたくんの力水」など、市民の手に届くものに源氏と川西市の関わりを記載したラベルを貼るなどして、魅力を伝える。

文化財資料館若しくは歴史民俗資料館を駅周辺に移転したり、ミュージアム化するなどの検討をする。

歴史を感じ取れるようなキャッチコピーやマスコットキャラクターをつくる。

市名を川西市の歴史や文化を感じられるものに変更する。

歴史や文化財にちなんだ自慢できるスポットを市民から募集する。

ボランティアガイドの会と協働して「川西の歴史」の授業を充実させる。(文化財の見学の頻度を増やすなど)

「まちの宝物サポート隊」を紹介するなどサポートを行う。

市のホームページを改良し、川西の歴史や文化をわかりやすく紹介する。

若い人が興味を持っているものを使って歴史文化を伝える。

能勢電鉄(株)とタイアップし、源氏発祥の地をアピールする。

青山大学に「川西市の歴史」の常設展を依頼する。

行政・企業・住民で協力してDMO(観光地経営組織)などの組織をつくる。

川西の歴史や文化に関して市が保有する資料を円滑に提供できる体制をつくる。

小中学校の夏休みの課題に「川西の歴史」を題材として選択できるようにする。

川西の歴史・文化に詳しい人を呼び、一般市民との交流の場を提供する。

社会見学や遠足などで市内の史跡や文化財を活用する。

駅名を歴史や文化を感じられるものに変更することを検討する。

能勢電鉄各駅のわかりやすい位置にQRコードを張り出し、訪れた人が文化財や歴史に触れられるようにする。

民間企業、 NPO等

その他の意見

歴史マニアをたくさん作る必要はなく、市民が周りから「川西はどんなところ？」と聞かれたときに何となく歴史の話ができる雰囲気を目指す。

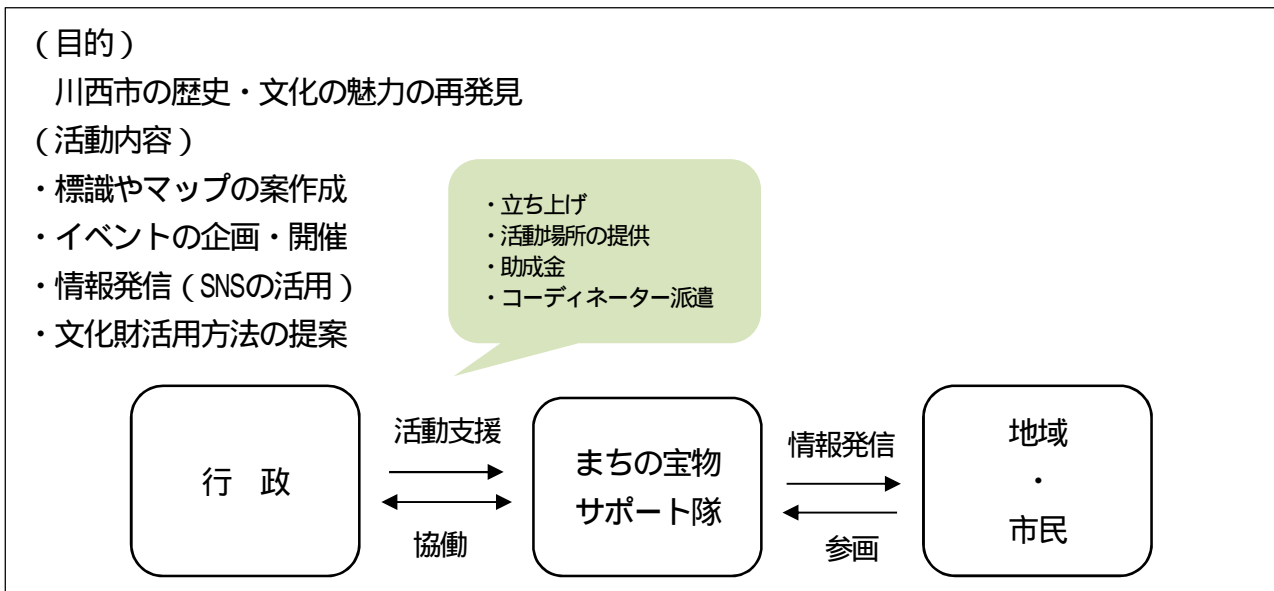
能勢電の各駅の看板に駅名の由来が書いてあるが、気づかれていない。

～提案内容の具体的なイメージ～

主体	取り組み内容	具体的なイメージ
個人	「まちの宝物サポート隊」	まずは4班有志メンバーで結成し、歴史や文化における市の魅力を改めて探り、それらを可視化する
地域	子どもが参加しやすい体験型イベント	子ども向けハイキング
行政	歴史を感じ取れるようなキャッチコピー	「源氏の町 川西」 「清和源氏発祥の地 川西市」
	市名の変更	「川西源氏市」、「清和市」、 「清和川西市」
	歴史民俗資料館のミュージアム化	バーチャルリアリティなど、動画で体験できるコーナーの設置
	若い人が興味を持っているものを使った歴史文化の学習	・遊びを通して学べるものを作成 「清和源氏に見立てたカルタ・将棋」 アニメやゲームの作成
	能勢電鉄(株)とタイアップした、源氏発祥の地のアピール	・漫画「川西の歴史」のアニメーションを作成し、聖地巡りを企画する

～具体的な施策提案～

1 「まちの宝物サポート隊」の結成とその活動



2 小中学校で「川西の歴史」の授業を充実させる。さらに学校生活の中の授業以外でも川西の歴史や文化に楽しんで触れる機会を作る。

(目的)

子どもが成長していく過程に、日常的に楽しく川西の歴史や文化にふれる機会を作り、文化を大切にする心と地域に対する愛着形成を育む。

(対象者)

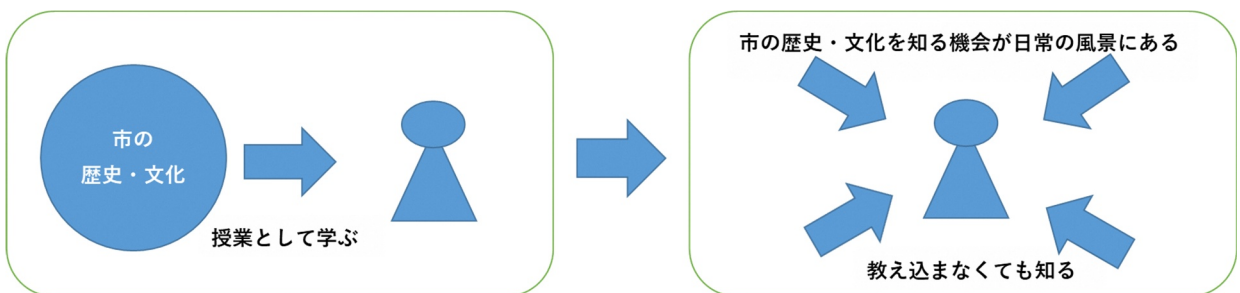
0歳～15歳(中学校卒業まで)

(場所)

市内の、保育所、幼稚園、こども園、小学校、中学校

(内容)

- ・川西の歴史漫画を教室に1冊ずつ設置する。(ターゲットの学年を決める)
- ・川西カルタ(歴史・文化・地名などの内容)大会を学校行事として行う。
(民間企業へカルタの作成を依頼・提案する)
(カルタの原稿は、小、中学生対象に作品コンテストを開催して作成)
(作成したカルタを各教室に設置する)
(作品コンテストの原稿や絵柄は歴史民俗資料館や文化会館などで掲示(かるたが長く浸透していけば歴代の専用の掲示スペースなども))
- ・社会の授業(地域編)で川西歴史クイズやプロモーション映像の放映などを教材として取り入れ、楽しく学ぶ仕組みを作る。
- ・学校行事(遠足・郊外学習)の行先に、川西市の史跡、文化財を選択する。
- ・地域学習の授業を地域の人をサポートできる仕組みを作る。
- ・川西ふるさと自慢絵画コンクール等を開催し図工や美術の題材に取り入れられるようにする。また、優秀作品には市長賞など授与し、展示を行い広報媒体として活用する。



～カルタの例～

さ
サイダーの祖
平野炭酸
三ツ矢

せ
清和源氏
武士の起源

ゆ
そろい踏み
源氏まつり
有名武将

2. 川西にある歴史・文化資源（多田神社、三ツ矢記念館、加茂遺跡、勝福寺古墳など）をより身近に感じられるよう活用の仕方を工夫する

【提案内容】

川西市には歴史的、文化的価値のある資源が数多くあるが、それらが市民にとって身近な存在とは言えない。多田神社、三ツ矢記念館、加茂遺跡、勝福寺古墳などをどのように活用すれば多くの人がそれらを身近に、また魅力に感じてくれるのか、企業とも協力しながら実行していく。

「提案2」の実現に向けて、**それぞれが行うこと**

個人

多田神社の由来などを知る、広める。
 三ツ矢サイダー発祥の地だということをもっと周りに広める。
 勝福寺古墳の全体像が見られるように整備するために寄付金を募る。

地域

多田神社でコミュニティイベントの成功祈願を行う。
 アサヒ飲料(株)の了承を得て、三ツ矢記念館周辺の草刈りをする。



行政

アサヒ飲料(株)に対し歴史文化を感じる商品等を提案・協議する。
 カップヌードル記念館があり、先進的に取り組んでいる池田市と意見交換する。
 加茂遺跡の状態が見える形にして見学できるようにしたり、勝福寺古墳の全体像が見られるように整備したりする。(その際寄付金を募る)
 文化財資料館で勾玉を販売する。
 クラウドファンディングを活用した市民プロジェクト立ち上げを支援する。
 文化財周辺整備費の補助制度をつくる。(文化財を所有する企業等)
 市のイベントを行う際に、市の歴史や文化を紹介するブースと記念撮影ポイントを設置する。
 まだ多くの人には知られていない川西の文化財や歴史的人物などを掘り起こす。

民間企業、
NPO等

能勢電鉄各駅のわかりやすい位置にQRコードを張り出し、訪れた人が文化財や歴史に触れられるようにする。

～提案内容の具体的なイメージ～

主体	取り組み内容	具体的なイメージ
行政	アサヒ飲料(株)に対して歴史文化を感じる商品等を提案・協議	<ul style="list-style-type: none"> ・以前あった「三ツ矢印平野シャンペンサイダー」のような、川西の水を使った川西独自のサイダーを製造する。 ・炭酸水を飲料用だけでなく洗顔など美容系商品として発売 ・源氏版特別ラベルの作成や源氏の話に記載したリーフレット同封のギフトセットの販売 「九つの泡」など、紹介したくなる話を掲載 ・三ツ矢記念館周辺に市の花を植える  <p>イメージ アンデルセン公園</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三ツ矢サイダーミュージアム建設。施設内にはペットボトル又はリターナル瓶充填施設などを設置し、地域内経済の循環につなげる。
	加茂遺跡を、遺跡の状態がみえる形にして見学できるようにする	 <p>イメージ 尼崎市田能遺跡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住居跡を復元する。(4棟)
	寄付金を募って勝福寺古墳の全体像が見られるように整備する。	<ul style="list-style-type: none"> ・円墳を復元する(2つ)

3. 他の市町村や企業との連携を強化したり、市にある資源やイベントをつなぎ合わせてストーリーを作ることで、さらなる付加価値を付ける

【提案内容】

川西市単独で個々の歴史・文化資源の活用を考えるだけでなく、例えば清和源氏のつながりのある市町村間の連携や、能勢電鉄など企業や大学との連携など、複層的に考えていく必要がある。また、源氏まつりをはじめとした市内のイベントや歴史・文化資源を、単独で考えるのではなくつなぎ合わせてストーリー性を持たせることで、より魅力を高めることができる。文化庁が認定する「日本遺産()」の登録を目指すことも検討する。

地域の歴史的の魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として文化庁が認定するもの。

「提案3」の実現に向けて、**それぞれが行うこと**

個人

まず足を運んでみる。
 イベントにできる限り参加する。
 友人との会話に文化財を話題にしてみる。文化財のPRをする。
 祭りに積極的に参加する。(子どもを祭りに参加させる)

地域

地域で独自に文化財を繋ぐウォーキングマップを作る。
 各地域(自治会など)から源氏まつりの懐古行列の応募を積極的に呼びかける。
 インターネットなどで「分かり易く」歴史と併せて文化財を紹介する。
 文化財を繋ぐウォーキングマップの作成や文化財を巡るバスの運行を検討する。
 清和源氏のつながりのある市町村間で連携し、歴史をたどれる案内書を発行する。
 行政が直接何かをするよりも、企業と市民やNPOをつなぐコーディネーターの役割を担う。
 能勢電鉄(株)とタイアップし、歴史文化を巡る環境を整える。

行政

ロケ地となりそうな場所をメディア作成会社に売り込む。
 川西の特産品を使ったお菓子(既存のものや新たに作るもの)に川西の歴史を紹介するパッケージを使ってもらい売る場所を増やすことを提案する。
 市の様々なイベントとコラボして、歴史文化の展示・魅力発信を行う。
 歴史文化の案内についての看板を設置し、市民会議で、『川西の歴史文化のすごさを皆に知ってほしいという意見から設置に至った。』というストーリーをつけて紹介する。

源氏まつりに幅広く参加できるように、出演者の人数割り当ての地域配分を工夫したり、学校を巻き込んだりする。

源氏まつりの企画の際に、他市から源氏に思い入れがある人を募集する

源氏まつりのイベントを駅前で行うなど、中部以外の市民も参加しやすい仕組みを作る

懐古行列で巴御前の相方である義仲も加え、募集の枠を増やす。

「日本遺産」に登録の申請をする。

民間企業、 NPO等

能勢電鉄(株)は川西市とタイアップし、歴史文化を巡る環境を検討する。

その他の意見

観光客を呼ぶよりも、市民が週末にどのように楽しめるかが重要。

観光客が増えると、宿泊施設の誘致も必要になるのではないか。

ゴルフ場を宿泊施設やホテルとして活用できないか。

外から「川西ってすごい！」と言ってもらうことで市民が気付くことを目指す。川西を知らないことが恥ずかしいという意識を市民に感じてもらう。

～ 提案内容の具体的なイメージ～

主体	取り組み内容	具体的なイメージ
行政	ロケ地となりそうな場所をメディア作成会社に売り込む	<ul style="list-style-type: none">・すでにロケ地となっている郷土館をさらにPRする。・TVの映像に使えるような良い場所やネタの情報をTV局に情報提供して営業を行い、新たなロケ地を発掘する。
	駅前でイベントを行うなど、中部以外の市民も参加しやすい仕組みを作る	単なる行列ではなく、「源氏コンテスト」のようなイベントを行う

	文化財を繋ぐウォーキングマップの作成や文化財を巡るバスの運行を検討する	<ul style="list-style-type: none"> ・観光ガイド「歩っとかわにし」記載のハイキングコースを歩くイベントを実施する。 ・コースの中に、文化財に加え、巡っている間に休憩できそうな飲食店やカフェなども組み合わせる。若しくは、近隣店舗を広告として掲載する。 ・参加賞として川西の特産品のプレゼントを検討する。
	「日本遺産」に登録の申請をする	川西は「源氏発祥の地」という凄さ地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーとして文化庁が認定する「日本遺産」に登録の申請をする。
行政& 民間企業、 NPO 等	能勢電鉄(株)とのタイアップによる、歴史文化を巡る環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・各駅での足湯の設置 その際に販売するタオルに源氏のストーリーをプリント ・文化的な駅名が多いことを活かしたイベントの実施 ・サイダープリントの電車の運行 ・割引券付き歴史巡り ・市のパンフレットを電車に貼る

1. 川西歴史文化ゲーム大会

(目的)

楽しいゲームを通して、川西の歴史や文化の魅力を再発見する。

(参加者)

一般市民、地域の子どもたち、企業、各種団体、行政関係者、学校関係者

(場所)

文化財資料館、キセラ川西プラザ、アステホール、体育館など

(内容)

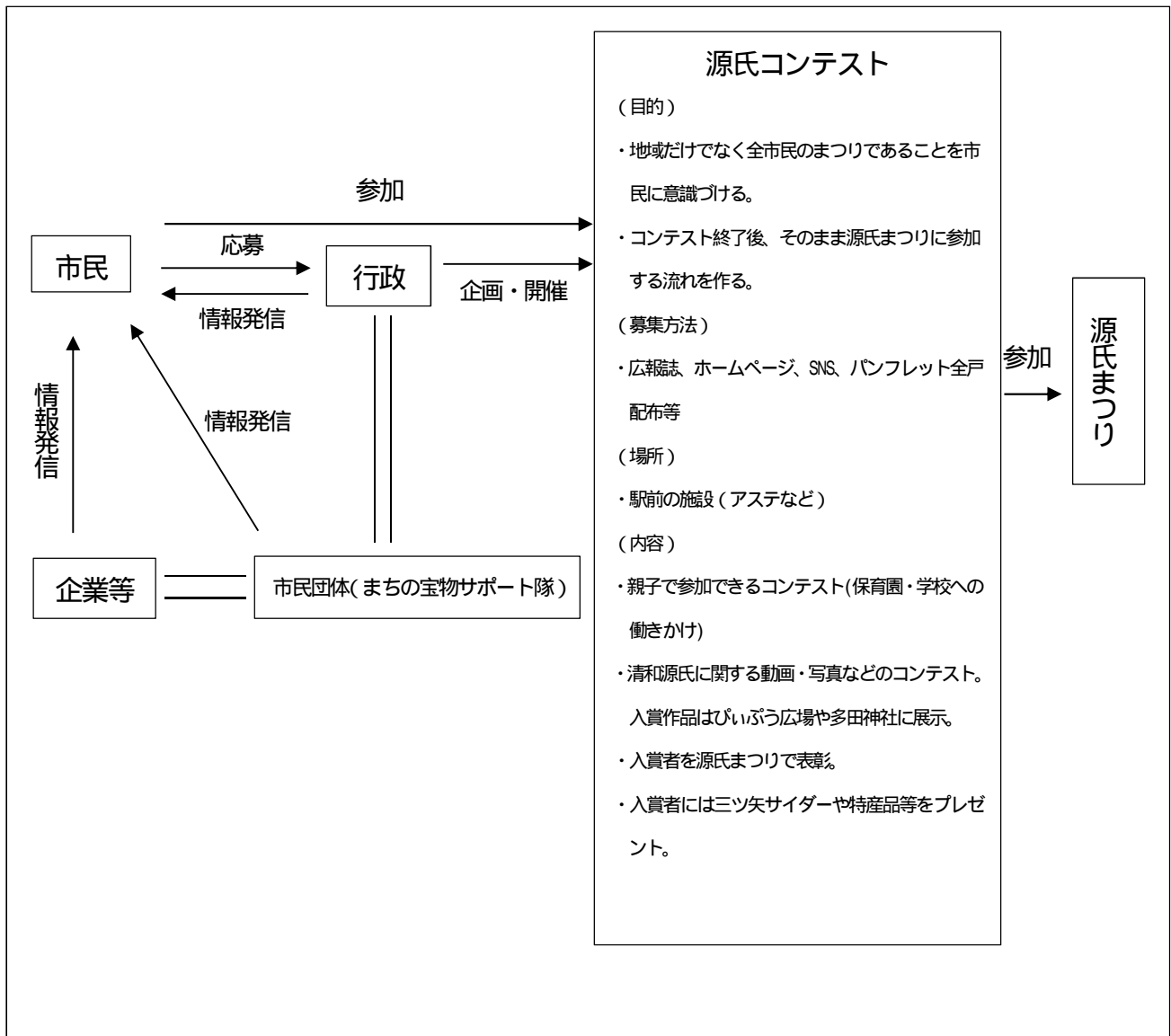
事前準備

- ・川西の歴史文化にちなんだ遊び道具を調達する。
- ・ふさわしいものがなければ、プロジェクトチームをつくり作成する。
- ・歴史文化に精通した人からアドバイスをもらう。

大会ルール

- ・川西源氏かるた大会
- ・川西源氏ボードゲーム
- ・賞品は川西市らしいお土産、特産品をそろえる
- ・三ツ矢サイダー発祥の地にちなんだ企画を実施する
- ・川西の歴史や文化にちなんだアイデアを盛り込む

2. 源氏コンテストの開催



4. 川西をこれまで以上に「歴史・文化のまち」にしていくため、情報の伝え方や表示の仕方などを工夫する

【提案内容】

歴史・文化スポットに人をつなげるためにはインフォメーションが重要になるが、それらの情報の伝え方や、案内板の表示や見せ方などが不十分である。特に川西市は若い世帯の転入者が多いが、転入者に情報が届いているとは言えないことが今回わかった。案内表示を統一イメージで設置するとともに、例えば市役所に転入の手続きに来た時に歴史・文化に関するパンフレットを渡すなど、転入者をターゲットにした情報の伝達に力を入れる。

「提案4」の実現に向けて、それぞれが行うこと

個人

道がわからず困っている人に道案内をする。
イベントなどの情報を取れる手段を探す。

地域

パンフレットなどの配布方法を考える。
自治会の中に転入者がいた場合は積極的に声を掛け、イベントに誘う。

行政


行先を表示するものが少なく小さいため改良する。
駅前や文化財周辺へ案内マップ、標識を整備する（能勢電鉄にも依頼する）
観光案内所を設置する。図書館に源氏特設コーナーを設置する。
「源氏の里」としてのインフォメーションを増やす。
アサヒ飲料(株)と協議し、自販機の色を青（アサヒ）から緑（三ツ矢サイダー）に変える。
転入時に市役所の窓口に来た際に、文化イベントの案内や川西の歴史の副読本などを渡す。
市役所の電話の保留音に「川西市は清和源氏発祥の地です」を流す。
川西市公式アプリをつくり、歴史文化の情報発信をする。
SNS で「#清和源氏」「#三ツ矢サイダー発祥の地」などで市民が発信する仕組みを作る。
フリーwifiを設置し、ログイン画面に川西の紹介画面を表示

民間企業、
NPO等

その他の意見

転入した時に川西の歴史文化に触れることで、その良さや魅力を感じる人が増えるのでは。

～提案内容の具体的なイメージ～

主体	取り組み内容	具体的なイメージ
行政	「源氏の里」としてのインフォメーションを増やす。	市役所の封筒に「(例)清和源氏、三ツ矢サイダー発祥の地」などのキャッチコピーと絵を印刷する(企業、大学などと協働し、デザインの作成や宣伝料の協力を打診する)
	駅前や文化財周辺へ案内マップ、標識の整備	 <p>【イメージ】 古河市:雪の結晶の観察を続け「雪の殿様」と呼ばれた古河藩主・土井利位の紹介などを町の中に設置して関連施設を案内)</p>

～具体的な施策提案～

1. 駅前の案内マップ設置や文化財周辺の看板整備

駅前に案内マップを設置し、文化財施設の位置情報を伝える

案内マップにQRコードを用いて位置情報取得のほか、歴史を紹介した動画へのリンクを貼る。案内マップのリンクのサイトにはアクセス情報のほか、地域の人や施設を利用した人のおすすめポイントや口コミを掲載できるようにするなど、単に行政からの情報発信ではなく利用者の声を取り入れる。

案内マップの全体のデザインを清和源氏PRになるものとする。

自動車で施設等へアクセスする際にわかりやすい看板の設置

その施設へアクセスする人のほか、生活道路として利用する人へのPR

まちの宝物サポート隊の活動の発信

まちの宝物サポート隊の活動の発信の場として、市のホームページや市役所内設置の案内板横デジタルサイネージを活用し、動画等で歴史や文化の紹介をする。

2. 川西市魅力紹介アプリ

(目的)

市民（特に転入者）へ川西市の文化・歴史を知ってもらう。スマホをよく使う若者にも知るきっかけとなる。

(周知方法)

広報誌、ホームページ、パンフレット、市民課窓口で紹介、企業等サイトにバナー掲載など

(内容)

- ・川西市の文化財の一覧及び説明
- ・清和源氏や三ツ矢サイダー発祥の地の説明
- ・イベントの日程一覧
- ・歴史資源等を結び付けたハイキングコースの紹介
- ・観光ガイド「歩っとかわにし」の紹介

清和源氏や三ツ矢サイダーなど歴史関係のみが興味を持つきっかけとは限らないので、川西の豊かな自然や特産品なども紹介する。そこから、文化・歴史につなげる。

将来的には市の生活情報のアプリも作りそれらとの連携をすることも検討

5. 市民一人ひとりが川西を自分ごと化することで、自分の住む地域を大切に
する文化を形成する

【提案内容】

市民会議に参加してまちのことへの関心がとても高まった人が多くいる。意識が高まれば市で起きている色々なことに気付くことができる。市民会議でも、歩きタバコなどマナーを守るようにするなどの意見が多く出た。

このようなことの積み重ねによって、川西に愛着を持ち、自分の住む地域を大切にする環境ができるので、市民みんなでそのような文化づくりを心掛ける。

「提案5」の実現に向けて、**それぞれが行うこと**

個人

川西を学び、愛着を持ち、文化を知り、まちづくりに参加する。

出かける際はまず川西市内で探してみる。

参加型の事業やプロジェクトを自分で創る。

ゴミ拾いや草刈りなどのボランティア活動に参加する。

歩きタバコなどの迷惑行為を見たら止めるよう注意する。

地域として楽しみを作りながら文化や自然をつないでいく。

地域

「ゴミの不法投棄禁止」「通り抜け禁止」の看板などが色あせて見えにくいものがあるので補修する。

歩きタバコの被害を考え、地域内に喫煙場所を設置する。

行政

住民参加型プロジェクトのコーディネートをする。

かわにし市民会議のような取り組みの場を作り、川西の文化とは何か？ のようなことを市民と一緒に考える。

歩きタバコ禁止のルール（条例）を作る。

地域住民、地域活動団体へ啓発チラシ配布などの啓発活動を行う。

劣化した注意看板などを補修する。

歴史文化の視点でのボランティアポイントを検討する。

民間企業、
NPO等

電車やバスなどで「歩きタバコをしない」というアナウンスを入れる。

その他の意見

タバコは体に悪いというPRだけでなく、市にとって貴重な財源であることもPRすべき
歩きタバコ禁止を条例でしぼるより、きれいな環境を整えていく市民性を提案する。

～提案内容の具体的なイメージ～

主体	取り組み内容	具体的なイメージ
地域	歩きたばこの被害を考え、地域内に喫煙場所を設置する	タバコを捨てる灰皿をアンケートのようにして、灰皿に捨てた吸い殻が多い方が多数派となり自分の意見が伝わるといった参加型にする
行政	歩きたばこ禁止のルール（条例）を作る。	市民会議有志（高校生など）で、歩きたばこ禁止条例の具体的な提案を行い、条例策定の検討を具体化する。
	歴史文化の視点でのボランティアポイントの検討	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遺跡の掃除や遺跡案内のボランティア参加で溜まったポイントを地域のカフェやお店で使う(地域の中での清掃活動など、様々な視点で活用できるのではないか) ・ ポイントや情報はアプリで管理